

K断層 破碎部性状 H24-H-13 深度8.89~9.80m(薄片作製位置)

・薄片は断層面 α 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

コア写真

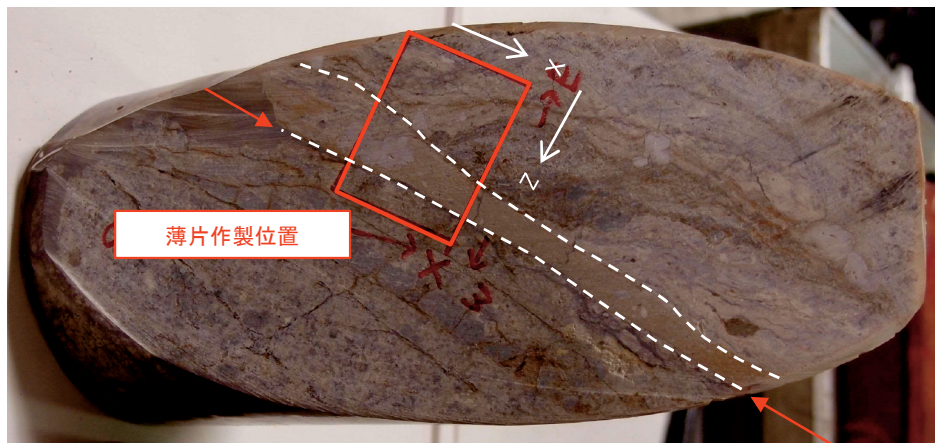


凡例

- 断層ガウジ
- ← → 破碎部範囲※
- 断層面

※:写真上は白色で記載

薄片作製位置写真

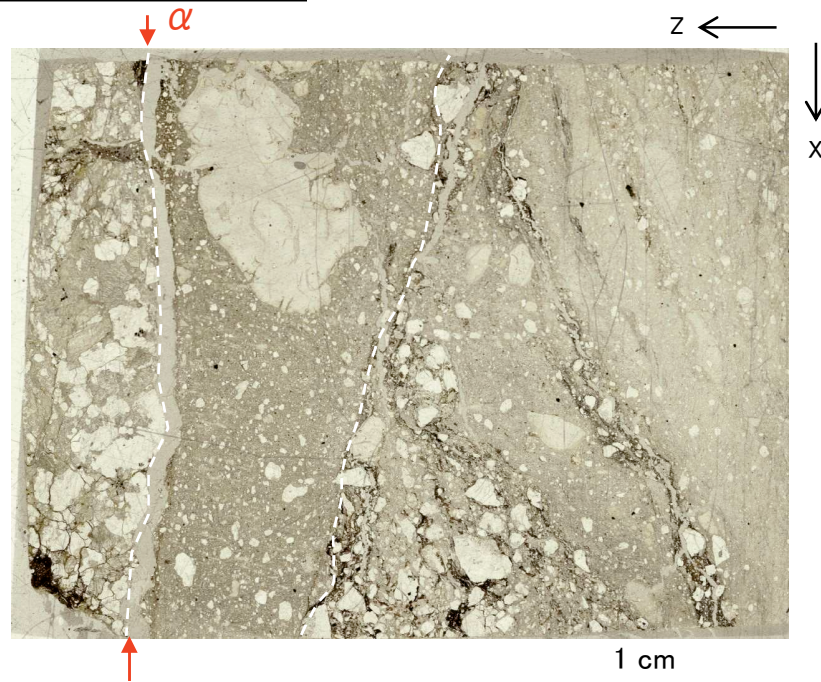


X:条線方向(下向きを正とする)
Z:断層面の法線方向(上盤側を正とする)

α

1 cm

薄片全景写真(単ニコル)



X:条線方向(下向きを正とする)
Z:断層面の法線方向(上盤側を正とする)

1 cm

凡例

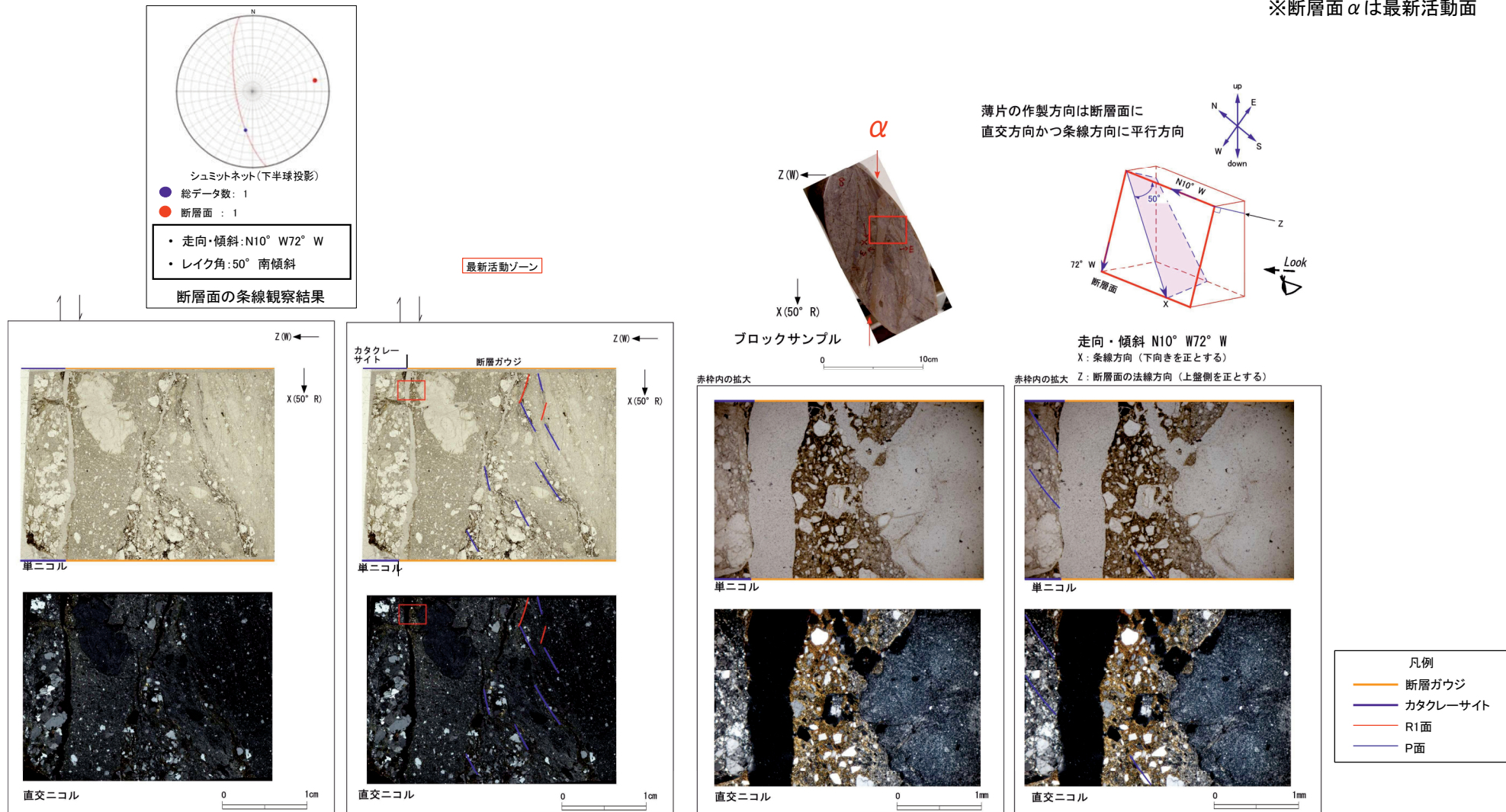
- 断層面
- 肉眼観察で相対的に細粒化が進んだ範囲※

※:写真上は白色又は黒色で記載

K断層 破碎部性状 H24-H-13 深度8.89~9.80m(変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/3))

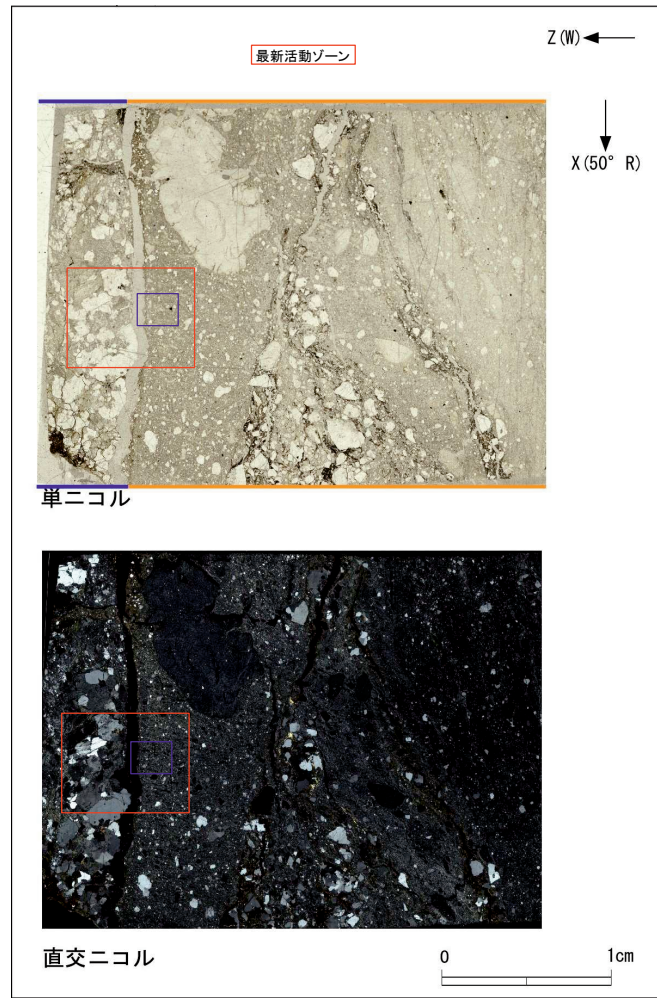
- ・H24-H-13のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、右ずれを伴う逆断層である。
- ・最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められる。両者の分布から、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられ、断層ガウジと判断した。
- (断層ガウジ) 基質は粘土鉱物を主体とする。
- (断層ガウジ) 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- (断層ガウジ) 丸みを帯びている岩片が多い。
- 岩片は少ない。
- (カタクレーサイト) 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。

※断層面 α は最新活動面

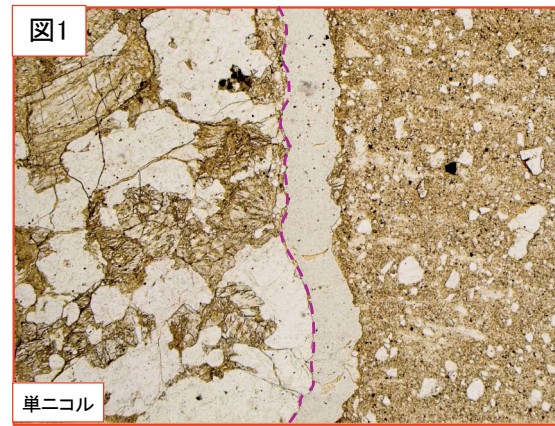


K断層 破碎部性状 H24-H-13 深度8.89~9.80m(変位センス, 薄片観察による断層岩区分(2/3))

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)



凡例
 — 断層ガウジ
 — カタクレーサイト



破線は帯状で直線的な範囲を示す

